

複式第3・4学年 国語科学習指導案

Ⅱ組 3年 男子8名 女子8名

4年 男子8名 女子8名 計16名

指導者 藤崎 智大

- 1 単元 物語を読んで、考えたことを発表しよう「海をかつとばせ」(3年光村上)
物語を読んで、しょうかいしよう「一つの花」(4年光村上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第3学年)

この期の子どもたちは、これまで「音読しよう」で、二つの場面についての登場人物の行動、場面の様子の違いを、会話や音などの叙述を基に読み取る能力を身に付けている。さらに、気に入った本を読んだり、その感想を伝えたりしたいという願いをもっている。

そこでここでは、中心人物の性格や気持ち、情景などについて、叙述を基に想像して読み取る能力を高めるとともに、自分と登場人物を比較しながら考えたことを、相手に分かりやすく伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「読んで、考えたことを発表しよう」(教材「海をかつとばせ」)を設定した。

この学習は、場面の移り変わりに注意して読む「物語の感想をまとめよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「海をかつとばせ」は、等身大の少年が中心人物の物語である。野球が大好きな少年の練習に取り組む姿に、自分の経験を重ねたり比較したりしながら読み進めるのに適した教材である。また、時間の経過とともに五つの場面に分けることができ、それぞれの場面の中心人物の気持ちを読み取りやすい教材である。

そこで、中心人物の人物像や気持ちについて、叙述を基に読み取り、それに対する自分の考えから感想をもたせる必要がある。

具体的にはまず、「今自分ががんばっていること」を発表させ、互いの考え方・感じ方の違いに気付かせる。また、目的意識をもって学習に取り組ませるために、「海をかつとばせ」を読んでの感想を書かせ、よく書けた部分と書けなかった部分を基に課題を見つけさせる。

その際、教師が作成した等身大の人物が登場する本の感想のモデルを示し、自分と登場人物

(第4学年)

この期の子どもたちは、これまで「音読劇しよう」で、場面の移り変わりに注意しながら、中心人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む能力を身に付けている。さらに、自分が読んだ物語を紹介したいという願いをもっている。

そこでここでは、登場人物の気持ちの変化や情景などについて、叙述を基に想像して読み取る能力を高めるとともに、物語の紹介したい部分とその理由を明確にして伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、「物語を読んでしょうかいしよう」(教材「一つの花」)を設定した。

この学習は、場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ち、関係の変化を考え、友達と交流して読みを深める「読んで考えたことを話し合おう」の学習へと発展するものである。

教材「一つの花」は、平和や家族の大切さを考えさせられる物語である。平和をテーマにしたこの物語は、いろいろな種類の本へと読書を広げていこうとするこの期の子どもたちに適している。また、「一つ」や「一つだけ」というキーワードや会話・行動・情景描写など複数の叙述を基に、登場人物の気持ちや場面の情景を想像しやすい教材である。

そこで、本単元では、キーワードを基に読み取ったことから感想をまとめさせ、テーマに沿って本を探し、紹介する活動へとつなげていく必要がある。

具体的にはまず、「平和について」の自分の考えを話し合わせることで、互いの考え方・感じ方の違いに気付かせる。また、目的意識をもって学習に取り組ませるために、「一つの花」の紹介文を書かせ、よく書けた部分と書けなかった部分を基に課題を見つけさせ、単元の目標を

を比較することでよりよい感想になることに気付かせ、単元の目標を設定する。

次に、「海をかつとばせ」を場面ごとに読み、行動などから人物像を考えさせる。その際、とらえた人物像と自分との共通点や相違点から考えたことを基に、感想をもたせるようにする。そして、読み取ったこと生かして「海をかつとばせ」の感想文をまとめさせる。

さらに、読書会を開き、3年生は「自分と等身大の主人公が登場する本を読んで考えたこと」についての発表、4年生は「平和に関する本を読んだ感想」を基にした本の紹介を同学年間や異学年間で行い、互いの発表に対して感想を交流させることで、それぞれの学習に対する達成感や成就感を味わわせる。

異年齢で学び合うよさを生かし、上学年・下学年のかかわりを深めさせるために、単元の導入と終末は一斉指導を行う。また、少人数での学びのよさを生かし、建設的・協調的に課題解決できるようにするために、間接指導時には、ガイド学習を行い、相手に分かりやすい伝え方、相手と自分の考えを比較する聞き方や問い返し方を発揮させ、考えを強固・付加・修正させる。その際、発達段階を考慮して、3年生は学級全体で、4年生はグループで話し合う場で、一人一人に役割を設定し、互いの考えを吟味させることで、一人一人の違いに気付き、協調的に考えを練り上げることができるようにする。さらに、毎時間の終末段階では、自分の考えの変容とその理由を振り返らせることで学習に進んで参加することに対する有能感や有用感を感じさせる。

このような学習を通して、学習の進め方に見通しをもって（計画性の向上）、課題解決に向けて自他の考えを尊重し（協調性の向上）、自分の役割に応じて追究しながら（責任感の高揚）、自ら集団にかかわり自己を高めようとする態度（自己肯定感の醸成）を育むことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習をどのように受け止め、どのような興味・感心をもっているかを調査した結果は、以下の通りである。なお、() 内の数字は人数を示す。（複数回答）

第3学年	第4学年
① 初発の感想 ○頑張って練習するワタルはすごい。(7) ○男の子の正体はだれだろう。(3) ○男の子との練習が楽しそうだ。(2) ② 今一生懸命取り組んでいること ○スポーツ(6) ○ピアノ(2) ○勉強(1) ③ 主人公と自分との比較 ○共通点…練習に取り組む(4)、運動が好き(1) ○相違点…あきらめず頑張っている(4) ④ 取り組みたい言語活動 ○音読発表会(5) ○紙芝居(3) ⑤ 難語句 ○ピンチヒッター ○アドバルーン ○ベンチ専門 ○水平線 ○かいしん	① 初発の感想 ○ゆみこがかわいそうだ。(6) ○家族と離ればなれになるなんて悲しい。(3) ○体が弱いお父さんが戦争に行くなんてかわいそうだ。(3) ② 戦争に関する知識 ○命が奪われる(4) ○日本は昔戦争をした(3) ○爆弾や戦闘機(3) ○生活が苦しい(2) ③ 戦争に関する知識の情報源 ○本…ちいちゃんのかげおくり(5) ○家族(4) ○テレビ番組(2) ④ 取り組みたい言語活動 ○音読劇(8) ○紙芝居(4) ○本紹介(3) ⑤ 難語句 ○配給 ○防空頭巾 ○軍歌 ○とんとんぶき ○プラットホーム

子どもたちの多くは、中心人物「ワタル」に着目している(①)。また、ワタルと同じように一生懸命に取り組んでいるものがある(②)。しかし、自分とワタルを比較した感想は少な

設定する。

次に、「一つの花」を場面ごとに、グループで行動や会話などから登場人物の気持ちや世の中の様子を読み取らせたり、戦中と戦後の場面を比較させ、題名に込めた作者の思いを考えさせたりする。そして、読み取ったこと生かして「一つの花」の紹介文をまとめさせる。

子どもたちの多くは、「ゆみこ」「お父さん」の二人に着目したり、平和に関する考えをもったりすることができている(①)。しかし、「一つだけ」というキーワードに着目している子ど

く、人物像をとらえているとは言えない(③)。これは、人物を中心とした読み取りや等身大の人物が登場する読書の経験不足が原因と考えられる。また、取り組みたい言語活動は、音読発表会や紙芝居など、これまでの経験で楽しかったものが挙げられている。しかし、本単元で取り扱う感想を交流する読書会への関心・意欲は低いので、導入段階で感想を交流させ、そのよさに気付かせたい(④)。難語句として、野球に関する用語が多く挙げられているので、辞書で調べさせる必要がある(⑤)。

(4) 指導上の留意点

- ア 主人公を共感的にとらえさせ、気持ちや人物像について話し合わせるために(協力、伝え合う)、教材を五つの場面に分け、それぞれの場面での行動の様子や会話に着目させる。
- イ 自分と主人公とを比較した感想をもたせるために(批判、伝え合う)、自分が今頑張っていることを想起させたり、感想を建設的に話し合わせることで、自他の考えの相違点に気付かせたりして考えを深めさせる。
- ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために(目標整合、参加)、「自分と等身大の主人公が登場する本を読んで考えたこと」について発表させる。その際、自分と等身大の主人公の本を並行読書させ、その中心人物に対する考えを、読書会で同学年や異学年間で伝え合わせることで、本単元での自他の成長について振り返らせる。
- エ 単元の特性、複式学級における「少人数」「異年齢集団」などの特性を生かした指導を行うために(つながり)、単元の同時導入・終末を行い、展開時には間接指導を行う。間接指導時には、3年生においては、ガイドの子を中心に学習を進めさせ、4年生においては、グループで簡単な役割(リーダー、質問係、記録係、発表係)を設定し、互いのグループの考えを汲み取りながらの質疑応答を行わせたりすることで、相手に分かりやすい伝え方、相手と自分の考えを比較する聞き方・問い返し方を発揮させることができるようにする。また、子どもたちのかかわりが深まり、役割に応じた交流をしていくことで、考えが強固・付加・修正されたことに気付かせる。

3 目 標

- (1) 等身大の主人公の本の読書をし、友達に主人公と自分とを比較した感想を伝えようとすることができる。
- (2) 中心人物の人物像について自分と比較して考えたことを、友達と比較しながら建設的・協調的に話し合い、分類することができる。
- (3) 場面ごとの中心人物の性格や気持ち、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。
- (4) 異学年の交流を通して、3年生は登場人物と自分とを比較した感想を分かりやすく伝えること、4年生は平和に関する本の感想を基に紹介したい部分とその理由を説明することができる。

もは少ない。戦争に関する知識は、既習の「ちいちゃんのかげおくり」からのものがほとんどで、平和に関する本の読書経験は少ない(②③)。また、取り組みたい言語活動としては、音読劇や紙芝居など、これまでの経験で楽しかったものが挙げられている。本単元で取り扱う本の紹介についても関心をもっている子どもがいたので、そのよさを導入段階で話し合わせたい(④)。難語句として、戦争時代に使用した道具などの用語が多く挙げられているので、写真等で示すなどの工夫をする必要がある(⑤)。

- ア 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちや世の中の様子を話し合わせるために(協力、伝え合う)、「一つだけ」などのキーワードや行動、会話など複数の叙述を関係付けさせたり、場面を比較させたりする。
- イ 自他の考えを代替的に話し合わせ、平和に対する考えを深めさせるために(批判、伝え合う)、自分の考えの根拠となる叙述を複数集めて関係付けさせ、本の紹介したい部分とその理由を明確にする。
- ウ 自分の読みの深まりを振り返らせ、達成感・成就感を味わわせるために(目標整合、参加)、平和がテーマである本を並行読書させ、読書会で同学年や異学年間で感想を基にした本の紹介をさせ自分の成長について振り返らせる。

- (1) 「平和」をテーマとした本の読書をし、友達に感想を基にした本の紹介をすることができる。
- (2) 主題にかかわるキーワードや複数の叙述を関係付けて考えたことを、代替的・協調的に話し合うことができる。
- (3) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の心情の変化や情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。

4 指導計画（全9時間）

過程	学習課題・主な学習活動（第3学年）	学習課題・主な学習活動（第4学年）
つかむ・みとおす①	1 学年毎に教材文を読んだ試しの感想をまとめる。《診断的な振り返り》 （3年生：「今、自分ががんばっていること」 4年生：「平和についての自分の考え」） 水泳の練習は大変だけど、頑張っているよ。 一輪車に乗ることができるように、毎日練習しているよ。 感想のモデルの提示 登場人物と自分を比べて読んで、考えたことを友達に発表しよう。	最近も、戦争をしている国があるって聞いた。 人の命を奪うなんて、絶対に許せないよ。 紹介のモデルの提示 平和についての本を読んで、心に残った部分とその理由を、友達に紹介しよう。
しらべる⑤	2 「海をかつとばせ」の登場人物に対する自分の考えをまとめ、発表する。（本時3／9） ○教材文の各場面の読み取り ○あらすじの確認 ○登場人物と自分との比較 ○登場人物に対する自分の考えのまとめ ○発表原稿の作成 ○感想の発表《診断的な振り返り》	2 「一つの花」についての感想をまとめ、紹介する。（本時3／9） ○教材文の各場面の読み取り ○キーワードの確認 ○題名についての話合い ○教材文についての感想のまとめ ○紹介原稿の作成 ○教材文の紹介 《形成的な振り返り》
ふかめる②	3 自分で選んだ本についての考え ① あらすじと人物像の確認 ② 発表原稿の作成	3 自分で選んだ本についての紹介 ① あらすじと場面設定の確認 ② 紹介原稿の作成
ふりかえり・いぬす⑥	4 合同読書会をして、意見や感想の交流を行う。《総括的な振り返り》 ○話合いの観点の明確化 ○同学年・異学年の交流 ○意見や感想の交流 読書のときに、人物像を考えながら読むと楽しいね。 4年生の平和についての本を読みたくなったよ。紹介したい理由があって、分かりやすかった。	3年生の発表は、人物像をしっかりとらえていたよ。目標に向けてがんばってね。 別なテーマに沿った読書もしてみたいな。読む本の種類も増えそうだ。

5 本 時（第3学年：3／9、第2学年：3／9）

(1) 目 標

海でひみつのとつくんをする場面の行動や会話の叙述を基に、ワタルの性格について友達と協力して考えることができる。

(2) 指導に当たって

自分の考えを相手に伝え、考えを組み取りながら話合いをすることを通してワタルと自分を比較した感想をもてるようにするために（伝え合う、批判、つながり）、ワタルの性格を考えさせる。その際、叙述から分かることを記入した小黒板を基に全体で吟味させたり、ワタルの行動に対して自分だったらどうするかと問うことで互いの考えの違いに気付かせるようにする。

学年別指導の中で、3年生はガイドの司会による話合いを中心に、4年生はグループで役割（リーダー、フォロア、記録係、評価係）を設定し、互いのグループの考えを組み取りながらの質疑応答を行わせたりする。その際、小黒板に「質問・同じ考え・違う考え」の視点で友達の考えに対する感想を書かせ、互いの考えの違いに気付かせ、考えの練り上げをさせる。また、終末段階では、集団の学びにおける自分のかかわりで考えが強固・付加・修正されたことに気付かせるために、自分が友達のどのような考えに影響されたか、自分が友達の考えにどのような影響を与えることができたかの視点で学習を振り返らせるようにする。

ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いをする理由を、お父さんの行動や会話の複数の叙述を関係付けながら友達と協力して説明することができる。

複数の叙述を関係付けながら話し合わせ、自他の考えを深めさせるために（伝え合う、批判、つながり）、お父さんがゆみ子をめちゃくちゃに高い高いをする理由を考えさせる。その際、お父さんのゆみ子に対する気持ちについてグループで、行動の様子や会話に着目しながら話し合わせたり、全体の話合いにおいて、互いの考えの違いに着目させ質問させたりする。

(3) 実 際

主な学習活動（第3学年）	教師の位置と具体的な働きかけ	主な学習活動（第4学年）
1 本時の学習課題を設定する。 (1) 出来事に着目しながら教材文を音読し、課題意識をもつ。 (2) 本時の学習課題を設定する。 どうしてワタルは、海で一人とつくんでいるのだろうか。 2 課題解決への見通しをもち、学習の流れを話し合う。 解決への見通し 一人で特訓するワタルの性格を読み取る。 ・行動を表す言葉に着目する。 3 ワタルの人柄を話し合う。 【行動の様子】 ・こわいのをがまんして こわいのをがまんする男の子 ・力いっぱい 野球を一生懸命練習する男の子 ・ぺたんとしりもちを あきらめずに努力する男の子 ・気合をこめて 目標に向かって懸命に頑張る男の子 【共通点】頑張り屋 ・きついけど頑張るぞと自分に言い聞かせていたから。 ・自分に負けたくないと思ったから。 どうして回数をさげんてかぞえたのだろうか。 4 本時のまとめを行う。 朝早く一人で練習するぐらい、目標に向かって努力するがんばり屋の男の子。 5 ワタルの人物像に対する感想を同学年で交流する。 目標に向かって一生懸命に頑張るなんてワタルはえらいな。僕も見習って頑張ろう。 6 自己評価を行い、本時の学習で考えたことを交流する。 ○○さんの「自分にまけたくない」という考えは、自分には気付かない考えでなるほどなと思いました。（付加・修正）	教師の位置と具体的な働きかけ 直接指導 (分) 1 7 6 問いを焦点化させるために(目標整合)、読後の感想を基に、一人海辺でとつくんをしているワタルの性格に着目させるようにする。 本時の課題解決に向けて見通しをもたせるために(計画)、設定したまとめに対する予想から、解決方法を話し合わせる。 互いの考えの違いを明確にするために(批判)、多くの考えに含まれるキーワードに着目させ、相違点と共通点をガイドを中心とした全体での話し合いで見出させる。 ワタルの性格に対する自分の考えをより深めさせるために(批判)、回数を叫んだワタルの行動に着目させ、実際に音読や動作化をさせたり、普段叫ぶときはどんなときかを考えさせたりしながら、ワタルの気持ちを想像させる。 本時の読み取りを基にワタルと自分を比較させるために(つながり)、ワタルと自分との共通点や相違点を基に感想をもたせるようにする。 考えを「強固・付加・修正」することができたことに気付かせるために(参加)、同学年間で、自分の考えの変容とその理由を話し合わせる。 間接指導 1 7 6 問いを焦点化させるために(目標整合)、本時場面を読んだ感想を基に、お父さんのゆみ子に対する行動について話し合わせる。 本時の課題解決に向けて見通しをもたせるために(計画)、設定したまとめに対する予想から、解決方法を話し合わせる。 お父さんのゆみ子に対する気持ちをより考えを協動的・建設的に話し合いができるようにするために(批判)、グループでの話し合いの役割を明確にし、根拠となる叙述を関係付けて話し合わせる。 互いのグループの考えをくみ取りながら質疑応答をさせるために(伝え合う)、自分の考えとの相違点の理由を問わせるようにする。 お父さんのゆみ子への行動の理由に対する自分の考えをより深めさせるために(つながり)、「めちやくちゃ」に高い高いをする理由を問い、やさしく高い高いをする場合と比較させ、父親の行動の背景にある気持ちを想像させる。	1 本時の学習課題を設定する。 (1) ゆみ子に対するお父さんの行動について考え、課題意識をもつ。 どうしてお父さんは、ゆみ子をめちやくちゃに高い高いするのだろうか。 (2) お父さんの行動の理由を考えながら、教材文を音読する。 2 課題解決への見通しをもち、学習の流れを話し合う。 〈解決への見通し〉 ゆみ子に対してのお父さんの気持ちを読み取る。 ・行動を表す言葉や会話文に着目する。 3 お父さんの気持ちについて話し合う。 【様子を表す叙述】 ・深いため息をついて言いました。 ・ゆみ子をととても心配して悩んでいる。 ・どうすることもできず悲しい気持ち。 【会話の叙述】 ・一つだけのよろこび ・どんな子に育つのだろうか ・ゆみ子の将来について心配している。 ・喜びが1つしかないゆみ子をかかわいそうに思っている。 【共通点】心配する気持ち、かわいそうだと思う気持ち 【お父さんが高い高いをする理由】 ゆみ子のために何かしてあげたいと思っているから ・自分にできることをゆみ子へしてあげたいと思っているから。 ・ゆみ子に笑っていてほしいから。 ・自分の不安な気持ちをごまかしているから。 どうしてお父さんは、高い高いをやさしくせずに、めちやくちゃにするのだろうか。 4 本時のまとめを行う。 ゆみ子に少しでも喜んでほしいと思いつつも、何もできない自分に対してやさしい気持ちだったから。 5 感想を同学年で交流する。 戦争のためとはいえ、ゆみ子に対して何もできないお父さんはくやしきっただろうな。 6 自己評価を行い、本時の学習で考えたことを交流する。 「お父さんは、くやしきった」という考えが、○○さんに納得してもらいまとめに生かすことができた。（強固）